

令和2年度第1回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

1 開催日時

令和2年8月24日（月）午後1時30分から午後3時30分

2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室
同 美波庁舎 大会議室 ※TV会議システムにて中継

3 出席者

(1) 政策総合会議委員

① 地域住民代表委員 14名（5名欠席）

青木委員 石本委員 尾崎委員 兼松委員 小林委員 酒井委員 坂本委員 武市委員
蘆委員 橋本委員 林委員 平井委員 藤田委員 町田委員

② 県委員 1名

木具南部総合県民局長

③ 計画推進評価部会 専門委員 1名

石田部会長

(2) 管内市町長、副町長 5名

表原阿南市長 坂口那賀町長 枅富牟岐町長 磯野美波町副町長 三浦海陽町長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

令和元年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について

(3) 意見交換

(4) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 令和2年度第1回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料1 令和元年度南部地域課題解決プランの実施結果及び評価（概要）
- ・ 資料2 令和元年度南部地域課題解決プランの実施結果及び評価
- ・ 資料3 令和2年度南部地域政策総合会議計画推進評価部会報告
- ・ 参考資料 徳島県南部圏域振興計画（令和2年3月改訂版）

6 議事概要

[司会]

ただ今から、令和2年度第1回南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、14名の地域住民代表委員の皆様、計画推進評価部会から石田部会長に、また、管内市町の5名の市長、町長、副町長様にご出席いただいております。

なお、飯泉知事は参加を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症対応のため、後藤田副知事が代理で参加しております。

[後藤田副知事]

皆さん、こんにちは。副知事後藤田でございます。今日は、南部地域政策総合会議を開催しましたところ、大勢の皆様大変お忙しい中にもかかわらずご出席を賜り、本当にありがとうございます。

ただ今事務局から話がございましたように、本日知事は、コロナウイルスの陽性患者がかなり出てまいりましたので、対策本部を開催することとなり、急遽私が出席することとなりました。よろしくお願いたします。

本日は、皆様方から南部地域の振興のための貴重なご意見を賜れるものと、楽しみにやって参りました。今日はどうかよろしくお願いたします。

[司会]

それでは、本日の議事進行は、新居南部総合県民局副局長が行います。

[副局長]

早速ですが議事に入ります。

本日の議題1の「令和元年度徳島県南部圏域振興計画の実施状況について」でございます。事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料1、2により説明)

[副局長]

次に、議題2の「令和元年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価」につきまして、石田部会長からご説明をお願いします。

[部会長]

(資料3により説明)

[副局長]

ありがとうございました。ただ今ご説明のありました、「南部圏域振興計画の実施状況」、「課題解決プランの評価」について、ご意見・ご質問ございますでしょうか。

(異議なし)

[副局長]

ありがとうございます。

石田部会長については、所用のためここで退席されます。石田先生、ありがとうございました。

(部会長退席)

[副局長]

ここからは、委員の皆様から、圏域の振興全般に対するご意見・ご提言をお聞きしたいと思います。

まず、阿南庁舎の皆様からお伺いし、続いて美波庁舎の皆様からお伺いできればと存じます。全員にご発言いただきたいので、私の方で順番に指名させていただきますので、お一人当たり3分でお話いただければと思います。

それでは、A委員から、順番にお聞きして参りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

[A委員]

私が今関わっている仕事は、観光の分野になるので、正直、この分野でしか発言することが難しいのですが。去年考えておったことと、今のこの現状、コロナのことがありまして、まったく見通しが立ってないというか、やりたかったことがまったくできてない、という状況がある。

我々が住んでいる那賀町ですが、過疎が進んでおり、観光に関しても流入が難しい状況にあります。その中でも、今後やっていきたいという方向性を言うと、観光から移住や流入に結びつけていくという流れの中で、PRの動画。四国の右下観光局がやってるYouTubeの動画などを使って、まず観光のジャンルから、地域の特性であるとか、いい場所を知ってもらい、そこから移住につながるような形に持っていく方向が、一番望ましいんじゃないかと考えています。

観光の部分がまず最初にピックアップする部分だと思うのですが、都会の人が今コロナ禍で田舎への移住を考えている、という話をよく聞きます。数ある田舎の中で、この徳島県、那賀町を選んでもらうためにはどうしたらいいかというところで、先ほど申したYouTube動画での田舎の特色などPRをしていきたいと考えています。今進行中なのですが、阿南市出身の方に協力をいただき、地元のみじ川温泉やあいあいらんどのPRを兼ねて動画を撮影し、それをPRしていこうという準備も進めています。

そこから、動画を見てももらった後にいかに移住につなげていくか、というところにも問題がまずあるのですが、実際に移住した後の生活を考えたときに、仕事の部分もかなり問題が出てくると思っています。その中で私が思っているのは、1つの仕事でずっと続けるというのではなく、これから田舎であればあるほど、いろんな仕事を抱えて、合わせて生活をつくっていくという形が、これからのスタイルになってくるんじゃないかと思っています。本業が1本あって、そこからゆずの収穫、晩茶の茶摘みの手伝い、草刈り作業、探せばけっこう仕事はあります。トータルの収入はそれほど高くなくても、高収入を望んでいる人ばかりではなくて、ある程度きちんとした生活ができて、慎ましく過ごしていける収入があれば、那賀町にも移住してもらえる流れになるんじゃないかと考えています。

[B委員]

私は40年弱、山・森林の保育、収入間伐に携わっているのですが、個人というか、自分でやって自分で全部出すという形態でやっております。

コロナで一番思ったのは、とにかく自分で考える、どうすればできるか考える。それのみかな、と

私は思いました。

それで、いろんな課題があるんですけども、やはり徳島県の森林、山づくり、どういう風にすれば、これから、今おっしゃった移住の方など含めて、施業、環境問題そういうものがクリアできるか、そういうふうな県の考えをお聞かせください。

それと観光。テレビを見ますと、徳島県は最下位と聞きました。それを脱却するにはどうするか。とにかく来てもらえるよう、選んでもらえるよう考えないと、なかなか難しいかなと。今日もラジオをつけてみますと、コロナが終わった後どこに行ってみたいか、世界中の人に、観光客の方に聞きますと、日本だそうです。なので、どのようにすれば。いろんな観光地があります。でも、徳島のどこそこに行ってみたい、選んでもらえる、来てもらえる、そういう観光をするにはいったいどういう風にしたらいいか、本当に今一生懸命考えないと、なかなか足を運んでもらえないのではないかなということなんです。

それでやはり、言葉は下手でも実践している人の言葉というのは力がありますし、いろんな方と知恵を絞って、林業の次の世代にそういうのが伝わればいいなと思っています。

今日はこの2点お願いいたします。

[副局長]

ありがとうございました。ご質問もいただいたんですけど、一通り皆様の意見を伺って、後ほど文書で回答させていただきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

[C委員]

文化事業について、お話しさせていただきます。

私たちは2月23日にピアノリサイタルを開催して以来、3月からほぼずっと事業が止まっています。その中で5月に自粛が明けてから9件、徳島のスティールパンバンド：パンドルさんの演奏会を企画・開催しました。ドラム缶を横に切って音を調整し演奏するトリニダード・トバゴの楽器ですが、その演奏会を楽しんでいただきました。またその演奏会の午前中には、毎年夏に行っている子どものためのワークショップなんですけど、今年は阿南の竹炭を使った打楽器を作りました。この半年の中でこの1日だけなんですけど、奇跡のような1日だなと思っています。7月26日のことでした。その後数えますと、子どものための音楽会が2つ、ロビーで行う演奏会が2つ、徳島出身の作曲家を中心としたアンサンブルが1つ、オーディエンス賞を受賞した方の演奏会、出演のためにゆとりをもってドイツから帰国して下さっていたコントラバスの幣さん、徳島県出身の方を含むパントマイム、ギターの徳永さん、最後に小学生なら誰でもホールでピアノが弾ける「みんなでピアノ物語」、全部で10の事業が中止・延期になっています。

感染予防のために、消毒液の準備とかより広い会場だったりとか、私たちだけでなくいろんな主催団体が困っており活動中止したりしてますけど、もし何かするとなると、先ほど申しましたように消毒液、より広い会場、少し経費がかさんでしまいますが、キャパを半分に減らしていますのでチケット収入を見込めない、とても苦勞しているところで、その辺りの何か手立てがあればいいかなと、これは希望ではありますが、思っています。

コロナ禍でイベントが減ると、チラシ配布の機会も少なくなってしまうので、私たちはWeb広報が今は頼りです。チケットのやりとりも少なくしたいので、チケットレスも進めています。ただその中で、やはりWebが使えない方たちもいらっしゃるんだな、ということも痛いほど感じたところです。子どもたちも授業がなくなって、Web授業がなかなか難しいということもあったようです。子どもた

ちや高齢の方たちがWebに親しめる、近づける手立てが何かあればいいのかな、と思いました。

事業がなくなれば、ないことが日常になってしまって、会館や劇場から足が遠のいていきます。コロナがなくても、日頃から会館にとってはそれがとても大きな問題だったんですけれども、夢ホールが忘れられないように、遠方から演奏家を招くことは大変なので、県内の演奏家たちと一緒にできるような企画を新しく進めていきたいと思っています。また、私たちの団体は、県内の演奏家を育てる・支援する活動も行ってきたので、その方たちと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

9月3日コスモホールで警察音楽隊の演奏会を予定しています。警察音楽隊は無料で出演していただきますので、地域の方々に無料で聴いていただけたらとても貴重な機会です。中学・高校のブラスをやっている子たちにはあこがれの対象であったりするので、続けていきたいと考えています。

資料を見せてもらって、伊島のササユリというのが出てきてたんですが、私は門外漢なんですけど、ササユリよりも伊島のツゲの方がより固有種だということを聞きます。注目していただけたらいいかな、と思いました。

あと1つ。阿南の中村園太夫座という人形座が毎年公演しています。阿南市文化会館ができてからずっと毎年公演しているんですけど、後継者問題がとても大変です。新野町の岡花地区の方たちが育ててきた団体ではありますが、式三番叟を奉納できる団体は県内ではとても少ないんです。何かあってからでは困るので、何かあれば何かできる心積もりを、周りの人間が持つておく必要があるのではと思いました。

最後に、忘れるところでした。7月26日に竹炭でマリimbaを作ったのですが、阿南の竹炭です。2週間かけてやっとできるんですが、他の県よりも手間はかかっているらしくて、燻して、焼いて、均すとおっしゃってました。その時間がとても大切だと。竹炭は健康にもよく、イギリスではおいしい紅茶を入れるのに使ったりします。皆さんコロナで気が落ち込んでると思いますので（マリimba試奏）こんな音がします。ちょっともろいので風鈴にはできないみたいですが、置いておくと健康にもよいようですので、ご注目ください。以上です。

[D委員]

今朝の朝刊に世界保健機構の報告書が掲載されていたのですが、地球温暖化が伝染病の大流行をもたらす、という30年前の記事が今朝の新聞に載っていました。その記事の中では、2020年度までに1.8℃前後気温が上昇するという予測が出て、世界人口の約半数近くの人が伝染病にかかるということが書かれてあったということなんです。30年前にそのようなことが予見されたというのはちょっとおかしいんですが、やはり資料によってその方は書かれたみたいなんですけど、すごいなあと今朝読ませていただきました。その中に、オゾン層の破壊によって人間の免疫が低下する可能性が大だということで、それで熱にも弱くなって、熱症による死亡が急増する。なんか今年を予言されてるみたいだなと思ながら、1つ1つ記事を読ませていただきました。

また、その中に、海面の上昇をもたらして、洪水の危険性が拡大するだろうということも書かれてありました。今年は阿南はあまりにも雨が少なく、8月に入り雨がほしいくらいなんですけど、他の地域を見ますと、災害、災害で、コロナどころではないような大変な状況があるみたいなんですけど、阿南においても一雨降りましたら、何回もお話ししてますように、畑田川の上流ですね。なかなか上流まで来てくれず、下流の橋のたもとで止まってしまふ。そこから先、進捗状況はどうなっているのか。ちょっと天気がおかしくなると、他の地域と比較して、ああ今年はどうなるんだろうか、また雨でお米がとれなくなるんでないだろうか、という不安を感じます。畑田川の進捗をもう少し早く進めていただかないと、30年も前から報告書に載っているように、温暖化が騒がれているのに、いっこうに進

まないというのはおかしいことだなど。また畑田川の改修には75年くらいかかっているような話をする方もおいでます。その辺、県としてもよろしくお願ひしたいと思ひます。

コロナ対策で大変だろうとは思ひますけど、ぜひその辺お願ひして私の意見とさせていただきます。

[E委員]

私からは3点ございます。

後藤田副知事が来ていただひていますので、申し上げたい点が1点あります。徳島県全体が新型コロナウイルスが本当にはやっているコロナ禍の中で、1つだけ、タスクフォースを作ってほしい点があります。何かと言ひますと、高齢者の分野ではなく、逆に若者向けの情報発信強化を、タスクフォースを作って県下全体で再度啓発強化をお願ひしたいと考えています。実は厚生労働省では3月31日に、新型コロナウイルス感染症に関する若者向けの情報発信を強化します、ということで、東京ガールズコレクションの出演者と一緒に動画を作ったり、美大とコラボレーションしてみんなで感染予防のコンテンツ動画を作ったりしています。県政全体でコロナ禍、若者に向けての発信強化をお願ひしたいと考えていますので、持ち帰り、政策についてご検討・ご検証をお願ひいたします。

さて、南部圏域に関しましては2点ございます。先ほどもD委員から雨のことで災害のことをちらっと言っただいたので、まずは災害の支援でございます。1点目でございます。まもなく台風シーズンを迎えます。危機管理、防災関係の方は、そろそろ準備せないかんという感覚でいます。以前この会議で、避難所となる県が持っている学校・体育館等において、電源の確保とクーラーの設備等がほしいと、これはお願ひではなくて、ほしいと飯泉知事がおられる前ではっきりと申し上げていません。その県南部圏域の建物等においての電源の確保とクーラーの設置状況について教えていただきたいと思ひます。

また評価等に関しましては、先ほどご報告があつたとおり、災害発生時、コロナ禍での避難の通知と要配慮者の支援の対策の現状についても教えていただきたいと考えています。

南部圏域においては南部総合県民局の皆さんが一生懸命やったださつてますので、ソフト面はだいぶ進んでいると、訓練に訓練を重ねているので、私としてはソフト面は進んできてるんじゃないかと考えています。ただ、プラスコロナが入ってきましたので、コロナ禍における避難所の運営等対策は、我々自主防の長や防災士の会といったリーダー的な方に対しても、しっかりと学ぶ場が必要だと感じています。そう思っただら、今月末30日と9月1日に県立防災センターで、コロナ禍における避難所運営・体験等をやっただけということ、私も阿南市から参加させていただきますので、しっかりと学んできて、阿南市の方へ活かしていきたいと考えております。

また、学校・体育館関係、ちょうど表原市長いらしてますので、ぜひとも阿南市における体育館関係の電源とクーラーの設置を早急に。これは絶対いるんです。いります。はっきりと言ひます。いります。ですから、ぜひとも次の予算計上なり、1カ所モデル事業でもいいので取ってきてほしいと考えています。

2点目は皆さんおっしゃるとおり、観光支援です。コロナ禍において観光をどないぞせんと、経済を回せんとどうにもならんぞ、とこれは分かりきつたことです。今、四国の右下観光局はじめ、DMOはじめ、一生懸命やったださつてきています。だけども私は注目すべきはDMVですね、世界初のデュアルモードビークル。この会議で1回目に出たときから僕ずっとやったださつてますし、イベントにも全部参加してきます。はっきり言っただアなファンでございます。それくらいDMVに時間かけてます。いよいよ世界初のDMVが、だいぶ駅の改修であつたり、改修の試験でバスを走らせたりという報道があつたと思ひます。ぜひとも県南部圏域の足となる、また観光にもコラボできるDMVの推進状況を教えてください。

それと同時に、昨年、次世代に向けた地域公共交通ネットワークについてのタスクフォースを作っていたいただいて、今年3月に南部県民局、また、知事あてに提言したところです。やはり地域公共交通、これからの時代、高齢者が増えてきて、やはり足がいるんです。加茂谷でも新野でも足がいる。これはたしか表原市長が、介護保険を使わずに足のことを発言されていたと思います。また市長から発言があられると思いますが、地域の足というのは、これから絶対大事。しかも公金を使わずにどないぞせなあかん、という視点は福祉の現場でもよく言われています。その視点についても、県政はじめ、行政、地域、しっかりと議論していく大きな点であろうかと、発言させていただきます。以上でございます。

[F 委員]

私は、選んでもらえる地域づくりという観点からとても大事なものは、広域連携でしかできない自然再生だと思っています。この県南部の海・山の自然の質を上げることで、観光、移住すべてがうまくいくのではないかと考えています。

私は今阿南高専で生物多様性の保全・活用事業を担っていますが、以前上勝町で、徳島県の森づくり千年の森で自然再生事業を担ってきました。この自然再生事業、徳島県の千年の森ですけど、全国自然再生ハンドブックに掲載されるほど評価されています。そこで大事な視点が、科学的な視点をういたということと、私はそこで「かみかつ里山倶楽部」という地域住民による組織を作り、指定管理を受けたんですけど、地域の方の技術や知恵を、その自然再生に盛り込んだんです。科学的知見と地域の方々の技術と知恵、両方合わせて自然再生を成功させてきたということがありました。

この南部圏域の自然の質を上げるということは、この圏域の施策に、今もすでに取り組みられていますけど、非常に取り組みやすいというか、とてもマッチしていると思っています。

今、阿南市の生物多様性保全・活用事業をやっていますが、今後大事だと思われるのは、保全するだけでなく、活用することにより産業との連携、というふうに思っています。

たとえばこの施策の中でも狩猟免許の新規合格者数が増えていますが、そういった方々のニーズに合わせて、肉の加工施設を作るであるとか、先ほど伊島の保全の話がありましたけれど、伊島のササユリの保全活動を進めています。ササユリが咲く環境をつくるという環境整備の視点では、里山環境をつくる、イコール、伊島ツゲも再生することなんです。シンボルとなる生き物は、あちこちで固有種がありますが、それだけではなく生物の多様性全体を保全し、そして地域力を上げていく。たとえばササユリをシンボルとする一次産物のブランド化もあるかもしれません。そういったことを、横のつながりを活用し、輪づくりをしながら、広域で進めていくことができたなら、と考えています。以上です。

[G 委員]

従来の意見と重なるところもございしますが、3点お願いさせていただきます。

まず1点目として、阿南IC関連道路の整備推進でございます。一般国道55号阿南道路と阿南ICを結ぶ基幹となる県道富岡港南島線をはじめとする道路網の整備推進をお願いします。

四国横断自動車道の全体の進捗ですが、南進しています。現在、阿南ICを予定している日亜化学工業では約3500名が、また、辰巳工業団地では日亜化学工業辰巳工場を含め4000名の方が働いています。工業団地内には、阿南市内の救急医療搬送・消防防災の中核となる阿南市消防本部も立地しております。現在の県道富岡港南島線は、狭隘区間が多く、特に通勤時間帯は往来に苦慮しており、医療と防災の見地からも、市内の東西を結ぶ基幹道路の早期整備が必要です。阿南ICから阿南市東部、国道55

号へのアクセス向上のため、また、那賀川南岸の漏水対策を兼ねた整備推進をお願いいたします。

2番目として、徳島県独自の料理宅配サービスのシステム構築。コロナ禍で苦しむ飲食店とタクシー事業者の救済策として、宅配サービスを四国内でも実施していると聞きますが、成功事例は少ないとうかがっています。今回、南部地域政策総合会議があると知人に話しますと、松山市・高松市ですでに開業しているUber Eatsのオリジナル阿南市版・徳島市版を作れないだろうかとの相談を受けました。今回のコロナ禍で、若者のフリーター層も、仕事探しに行き詰まっているのではないのでしょうか。

県内事業者が開発したタクシー配車システムを応用するとともに、自転車を原付バイク・小型車に変更し、配送範囲を広域化し、配達まで手が回らない飲食店の手助と、フリーター層が配達を請け負うことによる仕事への責任感育成につながるUber Eats徳島オリジナルを、県のアイデアと補助をいただきながら、ベンチャーを興したいと考えています。

3番目として、コロナ禍で苦しむ中小事業者への県独自の長期的な無利子貸付制度の構築。コロナ禍で大きく売り上げを落としている事業者も、雇用と地域経済を守るため、延命治療を行うべく運転資金の過度な融資を受けて営業しています。目安として、持続化給付金を受けた事業所で、国・県が定める諸条件に対応できた場合、長期の無利子融資と、国税・地方税の軽減措置を実施していただき、1年でも早くバランスのとれた経営ができるよう、配慮いただきたいと考えています。

苦しむ事業者は、顧客の生活習慣の変化を探りながら、時間をかけて新しい営業様式を模索する必要があります。返済不要の少額給付金を提供する外科的治療を終え、長期的な視野に立ち、利子補給制度を併用し、借入金を返済しながら事業を継続させたいと願う事業者への内科的治療への移行が必要だと考えています。

以上、要望させていただきます。

[H委員]

私からは、小さな花にも命があるということで、天然記念物タヌキノショクダイの保護についてお話しさせていただきます。

タヌキノショクダイは、那賀町が守るために鍵をかけて、一般の方は見るができなくなっています。でも、その鍵の外に元気なタヌキノショクダイがおり、増えています。知ってる人は行ってそれを探すんですね。ぜひ県・那賀町におかれましては、早く保護するようお願いします。町長も今日おいででするので、その点よろしくをお願いします。

それとですね、剣山スーパー林道は、徳島県では阿波おどりに次いで有名な場所、宝物だと思っています。その剣山スーパー林道が、治山工事などのために、約7年間全面通行止めになっています。宝の持ち腐れじゃないかと思っています。その進捗状況をお知らせいただければと思っています。非常に多くのライダーの皆さんに来ていただいております。私もその通過点で仕事をしている以上、観光面でも大きく痛手を感じています。

以上2点よろしくをお願いいたします。

[I委員]

台風シーズンになりまして、私の近所の加茂町の堤防、出来上がりが見えてきて、大変うれしく思っています。本当にありがとうございます。

今はコロナ問題で最悪な日々を送っており、なかなか「新生活スタイル」というものに慣れなくて、どう対応するか、日々思案しています。でもまだ数年はこういう状態が続くのではないかとすると、暗い気持ちが離れないので、最近では、明るい未来を想像して生きていかなければ、と頭を切り換えて、

何があるだろうと。高速道路がついたら阿南はどうなるか、と明るい未来を考えてみてはどうかと思います。もし四国横断自動車道がついて、未来の榑渚ICができて、日垂の前にもICができたとき、先日、祖谷のかずら橋に阿南の家族連れが日帰りで行っていたというくらいに、県西部へはどんどん人が集まるので、高速道路ができて、榑渚ICに降りたいなとか、阿南ICに降りたいなというようなまちづくり、どうしたらそんなまちになるか想像します。私からの提案ですが、まず日垂化学のインターの近くに一目でわくわくするような大きな看板を設置してみてはどうかと思います。それと、パブリックコメントを集めて、たとえば、海部の方では漁業体験が進んでいるので、榑渚なら農業体験ができるとか、そういうのを皆さんから意見を募集するようなことを考えたり。また、今、小学生の冬休みの宿題に、地球温暖化対策に関連した言葉を自分で選んで書く習字の宿題があるんです。上手な人は県庁のホールに貼っていただけるような取組もしていただいています。道がついたらどうなるかを、小学生に絵の募集とか、俳句、書道、みんなが楽しくなるような何かをしていけたらな、というのがひとつの意見です。

それから、「新たな挑戦」という資料（南部地域課題解決プラン）の23ページに道のことを書いてくれてまして、「黒河バイパス完成」ということで、私毎回この話をお願いしてるんですけど、やはり那賀町へ抜けていく道は、桑野を通らずに那賀川沿いを沿っていくのが一番スムーズに行けるルートです。経済にも県南の発展にも、日垂以外に大塚もあるので、是非ともこの黒河バイパスが生きていくような道の整備をお願いしたいと思います。那賀町へ抜けていく道は、加茂を通る道、十八女を通る道もあるんですけど、両方必要だと私は思います。たとえば緊急の時、台風が来て道がふさがった時に、ひとつの道では命が助からない場合もあるので、道の整備をお願いしたいと思います。

続いて、自然災害に関する件です。加茂の堤防、無堤防地区もできて様子が見えるほどできています。きつと驚敷まで、最近行ってないんですけど、驚敷の方の堤防も仕上がっていったらと思うんです。そうしたら、台風が来たときに、深瀬の堤防もできて、今までなかった堤防ができたなら、下流の方は水の流れが変わってくるように、不安に思います。以前この発表をしたときに、国交省の人が来て、こういう水位が来たらこういう状態になるという説明もしていただきました。今の古い堤防で、水が漏れているということで、補強の工事もしていただいているのですが、土手ができたらどんな流れになるかというのを皆が今注目しているところです。私たちの方は土手があるんですけど、十八女地区の方は土手がないので、なおいっそう無堤防地区の不安というのを抱えていると思います。

あと、観光のことについて。コロナが収束したときを見据えた、県南の魅力を発信するには、先ほどAさんからYouTubeの動画を利用してなど、いろいろ四国の右下観光局との連携について意見を述べられました。四国の右下観光局とやりとりができる場面をもっと分かりやすくしていただけたらと思います。

それと、私が言おうとしたことをEさんが言ってくれたんですけど、加茂谷とか新野、バス停までが非常に遠いんです。次世代公共交通ビジョンの取組も23ページに書いてくれていますので、うちの辺りではデマンド型タクシーがどういうものかななどを地域で考えたりしていますので、どういう取組を県がされているのか、参考にお聞きしたいと思います。

最後にもうひとつだけ。持井の橋をおりて勝浦に抜けていく道、それと立江に抜けていく道。持井の橋の所は阿南の玄関口だと私は思ってまして、その交差点を少し広げていただいたんですけど、もう少し広げていただいた方が、朝の渋滞も緩和されると思うんです。広げていただいたんですけど、土地の関係もあろうかと思いますが、もう少しあの交差点のところを考えていただけたら、と思います。以上です。

[副局長]

どうもありがとうございました。

それでは、阿南の委員の皆さん終わりましたので、美波庁舎にお集まりの皆さんお待たせいたしました。J委員からお願いいたします。

[J委員]

徳島大学の寄付講座開設によって県立海部病院で産婦人科が再開されてから10年になります。私たちは最初は10名、9名、8名と喜んでいたんですけど、10年経ちまして出生率が2.2%まで下がってしまいました。そこで1000名のアンケート調査をした結果、やはり小児科が週1回で、安心・安全に出産するには、若いお母さんたちは二の足を踏む、だから出生率が下がっているということです。本来ならば海部病院で、地元で産みたいという意見が多かったんです。海部病院に小児科をずっと置いてくださいというのは不可能なことなんですけど、出産というのは日にちが決まっていますので、その前後に医師に詰めていただくようなシステム。小児科だけでなく助産師、そうしたスタッフも、海部病院は、地域医療を守る会が始まってからずっと先生方に苦勞をかけていると思うんです。追い打ちをかけるようにコロナでも今すごくお世話になって、本当に先生方一生懸命やってくれています。だけど、この施策4（プラン4施策④）でも「妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援を行うため」、これ読みましたら一番最後の子どもを育てる支援が多く、妊娠・出産に関してはちょっと手薄じゃなからうかと思っております。阿南医療センターもできました。連携してシステムを組むのもけっこうだと思うんですけど、大きな医療センターがコロナが落ち着くまでもしもクラスターなど発生しましたら、やはり海部病院が生きてくると思うんです。そういうことをしっかり考えて、病院局、医療政策課ともに住民の意見を踏まえて、出産・育児に関するシステムを、早急に強化体制をお願いしたいと思います。

それで行政ばかりじゃなくて、私たち医療を守る会も、せっかく徳大から医師が詰めてくれていますので、妊婦さんとその先生方のスクラムが組めるような話し合いを持ってたらくと考えておりますけど、今コロナでそれができていません。がんばって、ここで産む・産みたいという方が増えたら、たぶん小児科は週5回はいけるんじゃないかと思っております。

それともう1点。DMV導入事業により、線路改修工事のために牟岐駅と海部駅の間でバスによる代替運行が始まっています。私も心配になりまして、JRの駅に尋ねに行ったら、タクシーが4台、大型のバスを出してくれると安心していたんですけど現実はそのようではなく、4台につついっぱい子どもたちが乗っています。バスも中型で、本当に「密」。もし1人でもコロナの人がいたら、全員、海部高校があかんようになってしまって、本当に影響・支障があるんじゃないかなと考えています。1月にはまた鉄道が再開されると思いますので、その間だけでも子どもたちの安全・安心を考えていただければ、と考えています。

それと同時に、阿南から海部までのJRが、便が削られています。これが、どうぞ存続してくださるよう、また署名活動もし、JR本部まで行きたいと思っておりますので、また知事の方にもご尽力いただけるようお伝えください。そうしないと、車を運転できる方はいいんですけど、これだけ高齢化が進んでいますので、それとともにバスといろんな方面で手を結んでいかなければいけない。最後にはDMVが阿南まで行くような時代になるかな、と考えております。

[K委員]

最前線の移住のことをお話をさせていただきます。対面の移住（相談）、県外からいらっしゃる方

をサポートする県、市町村、行政の方は、(新型コロナ感染に関し)一番怖いところにいるんですよ。県外の移住を考えていらっしゃる方たちも、行くことはできないなと思っていらっしゃるんですが、車に荷物を積んで徳島県へ来られた方の対応をしたことがあります。今、(移住)フェアのようなものはすべてなくなっています。マスコミで移住が増えていると言っているのは、移住をしたいという気持ちが増えている、ということだと思っていただけると一番いいと思います。

マラソンのスタート地点に、移住をしたいなと思っている人たちが集まってきている状況なんです。対面できない、こうやってテレビ会議・オンラインに移行していかなければいけないということが起こっています。年配の方や、お昼にオンラインの相談ができないと言っている人だから、メールや電話による相談が増えてるんですが、今、全国に向けてどこに行こうかって、マラソンのスタートラインに人が集まってきてるときに、みんなどこに行こうかって必死になって探しますよね。そのときに徳島県が最悪弱いのが、皆さん、今日もおわかりになったでしょう、テレビ会議。最悪ですよ。きれいに映って、何をしゃべっているかもきちっと出るようにしたり、動画で見せるとか、そういったことを次々とやっていかないといけないのに、今日の午前中も練習というか、オンラインでする会議を南部県民局と各市町でやったんですけど、用意が全然できてませんね。特に、先端の先生にお伺いしますと、いろんなソフトがあるんですけど、一番使われている、移住者の方とお話しするのに必要なのが、Zoomなんです。Zoomが一番カジュアルに使えるのに、どことは申しませんが、それを自身の庁舎で使えなかったところが2団体ありました。本当に残念です。早急にしていただかないと、いくらコンシェルジュや移住担当者ががんばっても、(対応が)できないというのは、最悪のことだと思っています。ごちゃごちゃ言わずにさっさと、Wi-Fiがないだの、機材が足りないだの言わないようにしていただきたいんです。県の中で特別オンライン課というのを作っていただきたいくらいです。そこに飛び込んでいけばどの課の人も、県の仕事に携わる人たちが機材がほしいとなれば、そこで調達できる。それからWi-Fi環境がきちんと整っている場所を教えてくださいと言えば、そこが教えてくれるということをやっていただかないと、今スタートラインに立っている移住の方たちに向けて、よその県はものすごくアピールできてるのに、徳島県はできてないというのははっきり分かっているので、とてもつらいです。

コロナが収束したらこの人たちをどうやって迎え入れるかということ、仕事はハローワークがあるので、やはり住まいをきちっと用意しておいていただきたいんです。(人が)いらっしやらない間に、担当者レベル、県の方も住まいの用意をきちっと用意しておいていただきたい。

それとリモートワークの方たちがどっと来ようとしてるので、それをいい状態で迎え入れるための準備をきちっとやっていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

[L委員]

今年も九州などで河川が氾濫し、水害があり、それに加えコロナ感染が発生しています。避難所では、仕切り・パーティションなど(対応を)やっていますが、2m空けてくださいという指示もあり、今までなら1mのところ、2mとなると、収容人数は半分になってしまいます。少々的人数が避難してきた場合はそれでいいかもしれませんが、この南部地域は津波災害にいつ遭うか分かりません。そのとき、大勢の人が来たときに、パーティション・仕切りもいいけど、大事ですけど、やはり一番いいのは、避難所をたくさん作ることだと私は思いますし、避難所がなければ、私たち南部地域には避難ビルはほとんどありませんから、なかなか避難所というのは難しいけど、そういうのを南部地域は希望します。

それから、資料2の23ページ、私少し関わりがあるので、報告させていただきます。デートDVの防止

セミナー、成果に「DV防止についての理解が深まるとともに、若年層に対しデートDV防止を啓発できた」と書いてあります。今年度、啓発がこんなにできたのかな、と私は思っております。私らも啓発はいろいろやっておるんです。先ほど、県の人権擁護委員連合会総会において、私らは阿南法務局の人権擁護委員ですけど、私らが作った教材が全国8件の中に選ばれました。小さなことですけど、私らは地道にこういう運動をしております。教材を作るのも大変だったんですけど、選ばれるということは名誉なことです。もし、デートDV（の啓発に）いろんな学校など行くときは、私らも同行して欲しいと思いますので、よろしくお願いします。

[M委員]

私事ですけれど、まもなく海陽町に来まして4年目となります。その中で、自分が仕事させていただいている分野以外の、昨年度ですとDMVの魅力化とか、いろいろ町内でおこなわれておまして、いろんなアイデアを提出することができたんですけど、想像以上の（町の）魅力に再度気づかされました。私の仕事自体は、観光に携わることもあるんですが、その分野とはちょっと違った分野の観光ことを考えることができ、私自身も仕事をしていく上で視野が広がった感じもあったな、と思っております。

今回は第1回目の会議ということで、また、私の方から新たな視点で観光についてのご提案をさせていただきたいと思っております。

私が今生活しておりますここ海部郡というのが、海に接しているだけでなく、山や川、海を感じて生活してるなと思っております。で、それぞれ海部郡に、このような特徴を活かした博物館が存在してるんだなと思ってるんですけど、それらの存在が観光の視点だけでなく、子どもたちの環境の学習という面でも非常に貴重なものだと感じています。

その中で、ご提案で恐縮なんですが、これらの施設の連携を用いて、海部郡とか南部の資源を用いるような体験学習であったり、あと、徳島県・南部に来られる方と、地域の方とか、南部が一丸となって、人と人とが関わっていきける、つながる場を作れたらいいんじゃないかと思っております。

と言いますのも、私自身が現在、海陽町の海洋自然博物館に勤務させていただいております。この周辺が、竹ヶ島の海域公園に面していることもあって、サンゴの保全活動であったりとか、活動の取組を知ることができたり、あとはブルーマリンというきれいなグラスボートもございますので、そういった点で、観光の面でも非常に充実した場所だと思っております。

その中でですね、サンゴの移植拡大に小学生や中学生が参加したり、中学生に授業を開催させていただいたり、あとはですね、サンゴの産卵が毎年毎年だんだん、特に日にちが決まってるんですけども、そういった長年15年間くらいのデータが積み重なってきておりますので、そのようなデータも用いて、サンゴの産卵を見学する産卵ツアーなんかを行っております。一步一步ではあるんですけども、竹ヶ島の、海陽町のファンを増やせているのではないかと感じています。

今年度コロナウィルス感染症が発生してるということがあり、密を避けた状態でなにか楽しめることがないかということで、竹ヶ島の海を用いて、磯観察の体験を実施しました。今年度は、竹ヶ島はもともと漁業が非常に盛んな地域でして、漁師さんにも授業に参加していただいて、漁師さんの目線から子どもたちに、たとえば食用になる貝ですとか、カニですとか、ヘビ、そういったものをいっしょに捕まえて、遊んで、子供たちに体験してもらおうというふうな活動させていただきました。

また、徳島県、海だけでなく川なども非常に豊富なので、子どもたちが遊ぶ際にもライフジャケットを着て命を守ることが大切だということを知っていただけたらということで、漁師さんと共有させていただいて、最初は海が嫌いで帰りたいと泣いてた子供たちも、最後は魚を追いかけて泳ぎ回ってい

たという、事業をするこちら側としても子どもの成長を感じることでできるような、また、こちら方からのお尋ねとしては、プラン5の自然・文化・スポーツ等による新たな魅力の創造とレガシーの創出に来年書いていただける、入ることができるんじゃないかなと思うような体験となりました。

ほかにもいろいろな施設があると思いますので、なかなかこういう実際に活動を・体験をやっていたり・いただきたり、というのは、なかなか課題も残されているとは思いますが、DMVも3台がとうとう走り出していくということで、このような流れに乗って、どんどん進んでいけたらいいんじゃないかなと思っております。

また、DMVがあるってということで、いわば徳島県だけでなく、今のこういったつながりも、これからどんどん広がっていくのではないかなと思っておりますので、私自身もその夢が広がっていくように、で、このような活動が、プラン17の「多様な自然環境の保全」ですとか、プラン18の「総合的な環境教育・環境学習の推進」、プラン21にございます「『四国の右下』ファンの拡大」につながるんじゃないかなと、一現場で働く者の意見ですが、受け止めていただくとともに、ご検討いただけましたら幸いです。

以上です。どうもありがとうございました。

[N委員]

私は海陽町にある総合型地域スポーツクラブで勤務してるのですが、コロナになって、ニュースなどでスポーツクラブでクラスター発生と、けっこうスポーツクラブという名称が頻繁に出ていたので、今は休館はしてないんですが、人数制限や消毒は徹底してやらせていただけてますが、昨年よりも会員数も利用者も減って、やらせていただけてます。2ヶ月弱くらい休館してたのですが、それでもやはり健康面は、会員・町民の皆さん、なんとか高めたい、健康志向ということで、リモートのレッスンをやらせていただきました。初体験なので失敗しながらやったんですけど、最初は自宅のWi-Fiが飛んでる環境の中でやったりしたんですね。もちろん休館中でしたし。今は営業してるので、普通にグループ教室もあるんですけど、今後のことも考えて、リモートで受けたいという方もいらっしゃるんで、Zoomで対応しながら、レッスンも残しつつ、今後のことも考えてやっています。普段は公民館で私たちはやらせていただけていて、大会議室でZoomをしようかとなったときに、環境がやはりなかなか整っていないところが多くて、まずは環境の整備かな、Wi-FiやLAN等、まずは環境づくりからだなと。

防災の面でも、今はそういったWi-Fi環境がないとなかなか情報が取れないと思いますので、そういうのも考えてこの先展開していただければと思います。

で、今回の意見ですけど、まずDMVについて。皆さん関心度が高く、Eさんもずっと最初からおっしゃってますけど、海陽町内でいよいよ始動する、工事も始まったということで、私のクラブでアクティビティ、スポーツに関してツーリズムで何かできないかと、いろいろ考えております。私も立案して、町内1泊2日くらいでツーリズム事業を考えて、今年はモニタリングをやっていこうと考えているところなので、町内のルート計画、観光コンテンツ開発の進捗状況をお聞きしたいと思いますし、それにいろんな企業や団体が一緒に参画できるのかな、というのも聞いてみたいところです。

もうひとつは、健康運動指導士でもあり、介護予防事業に取り組んでいる私としては、人生100年時代、健康寿命の延伸ということでフレイル対策。高齢者の集いの場・通いの場づくりとして、フレイル対策・サポーター、そして認知症サポーターの拡大、介護予防リーダーなど、関心の高い方は重複して何度も同じ人が取っている、重複して同じような教室に通っている方がおられたんですね。なので、私たちとしては、無関心層にいかにか切り込んでいくかということで、たとえば年齢を限定した

り、男性に限定して教室を開催したり、いろいろ取り組んでいます。健康診断の結果説明会などで、自分の数値を見てやっぱりどうにかしなきゃなど、そういうのに取り組んでいけないかなと、そういうときの運動処方づくりとか、取り組んでるんですが、なかなかうまく集客につながらないというのがあります。

クラブでも委託を受けて各（公民館）分館に行き、100歳体操を指導して、高齢者の集いの場づくりをさせていただいたりもしてるんですけど、このプラン（とくしま行動計画）では健康にぎわいの場の実施として、介護保険施設などで集いの場をつくるとなっています。こういった場合は賃料がかかるとか、地域から遠く、その場所まで行かなければいけないということがあると思うんですけど、そういったところを選んだ理由、そこにするメリットがあれば、参考にさせていただきたいので、その辺をお聞きしたいなと思います。

最後にひとつ。1週間前の徳新の記事によると、県スポーツ協会と県スポーツ振興財団が統合とありました。体協と大型地域スポーツクラブが今回一緒になって、地域の課題解決、地域活性化、技術力の向上、環境整備を整えていきましょう、ということだったんですけど、現在県下には36の総合型地域スポーツクラブがあります。ほとんどの市町村にあります。そこでですね、地域により様々な活動をしてるんですけど、地域の体協とどう手を取って組織化しながら総合型クラブの代表とうまく活動していくかというのが、どのクラブも不安なところなんです。徳島県は他の県と比べ特異で、広域スポーツセンターというところのサポートがすごく大きくて、大変力強く支えになってくれるんですけど、中間支援組織としてこのセンターが継続していけるような体制づくりも考えていただければと、後藤田副知事にも、飯泉知事にも是非お願いしたいと考えております。

[副局長]

ありがとうございました。委員の皆様からのご発言は以上となります。続きまして、各市長・町長・副町長様からご発言をお願いしたいと思います。

まずはじめに、表原市長、お願いします。

[表原 阿南市長]

私からは1点、この場をお借りして、皆様と課題の共有を図っておきたいと思っています。ご存じのとおり、先ほど徳島新聞社からも発表がありました。阿南市の飲食店を起点とした現時点で6名の感染者が発生したという報道がございました。この後徳島県からも、今後の対策等について発表があろうかと思っています。その点に関して、今阿南市で起こっていることをお伝えしておきたいと思うんです。現実の話として、皆様もそれぞれの地域で充分に起こりうる可能性があるということをお聞きいただければと思います。

先週からの話ですが、そういった感染に関する情報が、どこでどのように発生して、感染の可能性のある人がどうなっているのか、ということに関しいろんな憶測が飛び交います。その憶測に則って、やはり自分の営業するお店で出てはいけない、もしかしたらうちの従業員も接触した可能性があるかもしれない。その辺りの懸念をもとに、今阿南市のとある中心市街地エリアにおいては、9割以上の店舗が自主休業している状態で、町の灯はほぼ消えかかっているという状況が、この1週間ほど続いています。

医療機関、介護施設においては、ある1カ所で起きると、だいたい訪問介護と居宅介護、両方含めて併用している方がたくさんおられます。そのような中、うちのデイサービスでもあそこの施設を利用した方がいて、濃厚接触者と認定されなくても、自分も1週間程度、長ければ2週間程度自主休業し

ておいた方がいいのでは、と自分が担っている施設で感染者を出さないために、自主的に休業している施設もあつたりします。1つの施設が閉まってしまうと、介護を受けられない人が出てくる。それをお世話センターがまた調整しなければならない。けれども、正確な情報を得ていないがために、どのように調整したらいいのかということで、県の職員さんも、市の関係者の方も昼夜問わず働いて、大変な思いをされていることと思っています。

感染の問題は、いわゆる情報、インフォデミックにも大きな問題があると思っていただければと思います。

そこで1点、ご提案がございします。釈迦に説法になってしまうのですが、PCR検査を誰もが受けやすいように、という話が前々からありますけども、私としては、抗原検査の方に少し着目をしていただければと思います。抗原検査には2種類、定性検査と定量検査がございします。要は、感染がどこかで発生しました、濃厚接触者が検査を受けるタイムラグが2~3日ある、その間に人が動いてしまって、どこかで飲食したりカラオケしたりという間で、このタイムラグの間にまた次の感染者が、というケースもあろうかと思ひます。だから、自身が疑わしい、どこかの医療機関・介護施設で発生の疑いがあるときに、この抗原検査を、無症状の場合には定性検査ではウイルスが確認できませんので、定量検査を受けやすくして、本人の個人情報、風評被害に対する懸念もあるので、ここはしっかりと県としても、どのような判断を行うかというのはケース・バイ・ケースになろうかと思ひますので、全体の数値として把握したものを、関連する医療機関・介護施設の方々が、だったらうちは安心だね、だったらうちは数日様子を見た方がいいね、と冷静に判断できるような情報共有の仕組みができれば、感染拡大防止にもつながるし、風評被害を押さえることにもつながるし、飲食店に関しても同様に、なんとかそういったコロナ禍の状況であっても、細々でもいいからなんとか事業を続けていくことができる、というふうに考えております。

今後どういう展開を見せるか分かりませんが、阿南市としても、しっかりと県・国に支援していただいているガイドラインに則って、しっかりと感染拡大防止の取組を促して参りたいと思ひておりますけれども、やはり県の皆様方とも情報共有のあり方について考えながら、今後一緒に取り組んでいきたいと思いますと思ひておりますので、なにとぞよろしくお願いしたいと思います。

[坂口 那賀町長]

私からは、各委員さんから那賀町関係のご意見・ご提言をいただいた件について、県から文書で回答されるとのことですが、現在の町の状況等についてお話しさせていただきます。

まず、観光の関係でございします。この件につきましては、ご指摘のとおり、今ご覧になられている方はご存じとは思ひますが、YouTubeあるいはFacebook等でいろいろを情報発信していただいている方もおいでますが、町としても、今後12名のアーティストに出演いただき、本格的にYouTubeを活用したPRを、この12月から1月にかけて発信する準備を進めております。

これに関連するわけなんですけど、那賀町としていろいろな動植物、めずらしい草花等についても発信をするのですが、H委員からもご意見出ましたが、貴重な植物を発信しますと、どこにあるんな、どんな場所な、ということをお聞きいただけます。それを教えると、見るだけにしてくれたらいいんですが、盗掘されほとんどなくなっている植物もございします。タヌキノシヨクダイの柵についても、やむを得ずしたわけですが、柵の外にも出てきてますし、これは民有林の所有者の方にご理解いただいて設置した柵ですので、それを乗り越えて、あるいは周りに生えているやつを荒らしてしまう、非常に残念な話です。そういったことはしないように、是非お願いしたいと思ひますが、マナーを守っていただきたいと言うほかない、というのが現状です。そういったことで、追加の柵については、教育

委員会の文化財の事業でやってるものでございますので、教育委員会とも充分協議させていただいて、追加するかどうか決めたいと思います。

それから、B委員からいつも那賀町の森林のことでご意見をいただきます。町としても65,000ha、90%以上が民有林でございます。その民有林ということについても、公有林・国有林と違い、山林所有者の方の所得につながらないとご理解いただけないという、大きな課題がございます。最盛期のように1haあるいは1反切って1000万円余りの所得につながった時代と同じに戻せとは言いませんが、なんとか1haあたり100万円くらいの所得につながらないかな。価格は到底、今の状況からして無理かなとも認識しています。そうした中で、山林所有者の方にお金を残すのは、やはり建築用材、あるいは森林材のバイオ関係の燃料に使われるとか、そういった森林材も含めて1haあたり100万円くらいはなんとかならないか。その辺りを各関係機関とも、森林組合も含めていろいろ協議をしていますが、やはり生産から流通のその対応をどうにかできないか。今まで市売りが主だったのを、直売とか、売り込むような対応策をできないか、ということをご組合と事業体と協議しております。

先般もそういった会をしたんですが、今までと違って、かなりそういうことについて積極的に進めていこうという状況にはなっています。やはり、そういったことをやっていかないと、今のご指摘のような、間伐もできていないような山の手入れをしていくためにも、なにか山林所有者の方に恩恵なりお金が残らない、なかなかやっていただけない。町有林としても、毎年、今までも100ha近く購入してきました。この中で企業局から支援いただいていた分が、今後そのお金で、公有林というだけでなく、間伐や林道周辺等での景観整備に使うというのもいいという制度になっております。今年度からその企業局の財源を活用させていただき、森林整備に町としても取り組んでいきたいと思っております。

どちらにせよ、今の木材価格の中で、山林所有者の方のご理解ご協力をいただくためには、町としてもいろいろと。新しい森林管理システムができないところは町が全部環境税を使ってやりなさいということになってるわけですが、ただ単に「できんけん、うちのんやってだ。ただ、多少はお金になるんだろ？」というのが本音なんです。そういうこともございますので、町としてもできるだけご意見・ご提言に乗るような対応をしていきたいと思っております。

[副局長]

ありがとうございました。続きまして、美波庁舎にいらっしゃる枅富町長、よろしくお願ひいたします。

[枅富 牟岐町長]

県民医療の最後の砦となる、県立海部病院の機能強化について、発言させていただきます。

県民が、いつでも、どこでも、等しく、高度な保健医療サービスが受けられる徳島づくりという点でございます。県南部では少子高齢化が特に進んでおり、牟岐町においては、51%を超えております。地域住民の医療ニーズも多様化・高度化しています。近年では専門医師の不足および不在のため、重病・重症の方は、海部郡外の総合病院に救急搬送しているのが実情です。このような実情に鑑み、地域住民の生命を守ることを最重点として、地域の実情に即した保健医療サービスを積極的に推進していくため、県立海部病院の機能強化について、4点強く要望いたします。

1つ目に、小児科および産婦人科の存続と機能の充実強化でございます。

2つ目が、救急指定病院としての体制の強化でございます。

3つめに、住民が等しく、高度な医療を受診できる地域中核病院としての整備でございます。

最後に、現状の診療科目を維持するための専門医師の確保につきまして、今までどおりの金額か、今まで以上に強力に取り組んでいただけますようお願い申し上げます。

次に、旧海部病院についてお願いをいたします。

7月10日、町議会をはじめ町内関係団体の皆様にご協力をいただき、知事に対し、新型コロナウイルス感染症の収束後、地域振興に資する施設として有効活用するため、要望活動を行ったところです。利活用に関する県の考え方が示されるとともに、町や町議会をはじめ、関係団体の皆様からご意見をいただき、牟岐町はじめ県南地域の発展に資する施設をつくりあげていただきたい旨のご発言がございました。これも県の事務担当部局である病院局と旧海部病院利活用検討協議会への町内関係団体の参画をはじめとする協議手法について、具体的な話し合いをおこなっているところです。今後、各関係団体の皆様にもご協力いただき、旧海部病院が牟岐町にとって、また県南地域の活性化の拠点として、よりよいものとなるよう、町としても積極的に取り組んでいきたいと考えております。

また、後藤田副知事におかれましては、ご指導・ご協力を賜りますようお願いいたしまして、私からの発言といたします。

[磯野 美波町副町長]

私からは、ワールドマスターズゲームズと新型コロナウイルス感染症対策について、情報共有の観点からご報告させていただきます。

ワールドマスターズゲームズ2021関西トライアスロン競技については、来年の5月22日、23日に予定されているところですが、町では準備室において、大会開催に向けての準備を進めているところでございます。この大会では、美波町では初めてとなるパラトライアスロン競技が実施されることから、来月9月13日の日曜日には、スイムを終了した選手の介助や、二人乗り自転車の走行テストなどを行うこととしております。新型コロナの影響による延期等も考えられますが、現時点においてできる限りの準備を、関係機関と調整しながら進めていきたいと考えておりますので、県においても、様々な面からご支援をお願いいたしたいと思っております。

次に、新型コロナウイルス感染症対策についてでございます。国内外を問わず、世界各地においても猛威を振るっている新型コロナウイルスによる経済的打撃は計り知れないもので、長期化することでさらに深刻化することが懸念されています。このことから、このたび少しでも景気を回すため、国および地方において、事業者等への各種支援が行われているところでございます。

美波町におきましても、宿泊業をはじめ飲食業、漁業など幅広い業種において売上げが落ち込んでいる状況にあります。道の駅日和佐においては5月の売上げが、前年同月比87%減少しており、今後の地域経済の維持のためにも、町独自の第一次の支援として、売上げが20%以上減少した事業者に対し、事業者応援給付金として10万円を給付させていただいております。

しかしながら、売上げの回復が鈍いことから、第二次支援として、この事業者応援給付金の第二弾を予定しております。また、長期化により多くの小売業、飲食業への影響を考慮し、町内住民への商品券の配布を予定しており、商品券の恩恵を受けられないであろう宿泊業や交通事業者等へは、また別途給付金の支給を予定しております。

感染予防対策としては、町内の医療機関である美波病院に陰圧室やサーモグラフィーの設置など医療体制の充実や、公共施設の感染予防設備の整備を図ることとしており、コロナの抑制と経済活動の支援を並行して取り組むこととしております。

最後になりますが、病院や保健所の医療関係者、多くの関係者の皆様方には、コロナ対策に日々ご尽力されていることに対し、心から感謝と敬意を表しまして、美波町からのご報告とさせていただきます。

ます。

[三浦 海陽町長]

県におかれましては、日頃から海陽町における避難等にご支援いただき、ありがとうございます。以前、津波の時に避難するのにテントを500張りほど購入いただいており、今回、コロナ禍における避難ということで、飛沫感染や接触感染をなるべく減らすため、室内にテントを張って避難する試みをさせていただいています。なんと全国放送のテレビスクランブルからも取材を受けたところであり、本当に感謝いたしております。

今日の委員の皆さんからの海陽町に関する質問について、お話ししていきたいと思っております。

まず、Nさんから公民館にWi-Fiがないというお話がありまして、K委員からもちろんとした環境整備が重要なのではないかというお話もありました。海陽町としましては、今回の9月予算ですぐにやりたいと思ってるんですけど、それとコロナ禍で学校休業で、Wi-Fi環境があるお子さんに対してYouTubeによる授業配信を実施したところなんです。学校の方から（Wi-Fi）環境がない家があるということで、教育格差が出てはまずいんじゃないかと反対もあったんですが、やれるところからやってくださいとやってたんですが、今回、家にWi-Fi設備がない人でも公共施設などを利用してちゃんと授業が受けられる環境を整えられないかと、教育委員会の方にも指示しているところでありまして、それと合わせて公民館なども整備していければと思っております。

Nさん、Mさん共通してのご提案であった観光面ですが、自然とか文化にもっとスパイスを加えて情報発信をしていかなければならない、そして誘客できる場所にしていかなければならない、と感じているところです。特に、今年度は、阿佐東線に世界初の乗り物であるDMVが運行しますので、それを集客の始点とし、DMVに絡めた施策をしっかりと展開していくことが最重要課題であると考えています。

DMV以外のいろんなコンテンツで顧客を満足させて、また来たいと思わせるにはどうしたらいいのか。また逆に、DMVしかないと言われないうちに、海陽町、南部地域の観光にとって、ここ数年が非常に重要な時期だと思いますので、しっかりと準備して行ければと思っております。

そこで海陽町としては、DMVの発着地点が海南文化村と道の駅穴喰温泉になっておりますので、乗車するお客様が1～2時間飽きずに滞在できるような施設に改修していこうと考えています。そして、各駅とも下車したくなるようなコンセプトで魅力アップを図っていこうと考えています。各駅の魅力アップはもちろんですが、それに加えて、そこを起点としてポタリングや名所巡りのような誘客にお力添えをお願いしたいと思っておりますし、今日も各委員DMVのことをいろいろご心配いただいてもいます。各委員の皆様方にも具体的なアドバイスを是非お願いしたいと思っております。

そして、DMVにからめたツーリズムのご提案もありましたが、私は、観光客だけではなく、住民の方が自分の地域のよさを改めて実感する上でも、ツーリズムの提案は必要であると考えています。しかしながら、年間何百万人も観光客が来るところと違いまして、だいたい目標1日200人程度の集客を予定しているので、いろんな業者が同じようなツアーを企画しては、お客がばらけてしまう危険性がございますので、窓口をひとつにさせていただいて、そこから皆さんにツアーを発信して、ということができればいいのかなと思います。SNS等でいろいろ発信していくより、その方が発信しやすいし、ばらけてよく分からないと言われることがないよう、まずその窓口を中心とした中で、町やNPO、商工業者が連携して提案していけるような、そのような取組をしていっていただきたいと考えています。

せっかくよい商品があっても、知ってもらえなければなかなか売れないということですし、売れな

ければ観光を「なりわい」として継続していくことはできませんので、これを見てほしい、ではなく、どんなことをお客さんが求めているかを考えながら、いろんな観点で準備をしていければと思っていますので、これまで携わっていたお二人からも、そのようなご提案をお願いしたいと思います。

そのほか、Nさんから、高齢者の集いの場に関心な方にもっと参加してほしいというお話がありました。たぶん、無関心なのは自分のような男性がほとんどだと思うので、参考になるかは分かりませんが、個人的な私の考えを述べたいと思います。

心理学的に言うと、女性は存在的動物で、ストレス解消の一番の手段は定期的集まってしゃべることだと思います。逆に男性は社会的動物なので、実利を重んじる傾向にあり、自分時間の充実がストレス発散になるということがあります。男性と女性の脳の違いがあるのかもしれませんが、女性は作業しながら別のことができるというマルチタスクですが、男性は集中してほかのことは頭に入らないという、シングルタスクの傾向にあると思います。その辺り、すべての人が当てはまるかどうか分かりませんが、心理学的なことも入れて、福祉課とも相談しながら戦略的に対応を進めて行ければと思いますので、是非Nさんから見た観点も教えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

[副局長]

どうもありがとうございました。

実は今日急遽欠席されたO委員からコメントをいただいておりますので、簡単にご紹介いたします。

「県職員の方、医療従事者の方、コロナ対応ご苦勞様でございます。」それからもう1点「日和佐の『ちょうさ』明治神宮奉納の件、取りやめとなりましたが、知事さんにはご心配いただきましてありがとうございました。」とのコメントをいただいております。

それでは最後になります。が、後藤田副知事からお願いします。

[後藤田副知事]

本日は、長時間にわたり貴重なご意見・ご提言を賜り、本当にありがとうございます。

やはり、一番多かったのはコロナ関係かなと思いますが、正式な回答は、後ほど文書回答ということでございますが、今日いただきました、たとえばコロナの災害対応ですと、コロナ禍における大規模自然災害時の避難所の運営、そしてまた、避難所としての学校の体育館、その空調設備の充実といったお話がございました。

それからまた、観光振興については、コロナ禍のもとの新たな観光のあり方、そしてアフターコロナを見据えた観光振興といったご提言をいただきました。

そして、G委員からは、中小零細事業所への支援。ウィズコロナ、経済対応をしっかりとというお話をいただきました。

それから、コロナ禍における移住相談ということで、今この時期だからこそできるWeb会議、オンライン会議。そしてまた、リモートワークにも対応する環境の整備の重要性ということもいただいたところでございます。

そのほかにも、バス代行の密集対策であるとか、コロナ禍での文化活動の難しさといった面もお聞かせいただきました。

徳島県、コロナに関する点については、先手先手に対応していくべき、重要な喫緊の課題だと思っております。この点につきましても、経済、観光問わず、様々な分野においてしっかりと対策を取っていきたいと思っております。

また、ハード対策においても、高速道路をはじめとする道路整備や、河川改修についてもご意見いただきました。

それから、県立海部病院。こちらのほうでは、安全安心な出産に向けての体制の整備。これは、牟岐町長からも海部病院の機能強化ということで、小児科、産婦人科をはじめとする機能強化に努めていただきたいとのご意見もいただいたところでございます。

そして、フレイル対策でありますとか、地域での公共交通、地域の足の確保と行った点についても、ご意見いただいたところでございます。

こういった様々なご意見について、それぞれ皆様方の地域に根ざした意見ということで、しっかりと検討させていただきまして、前向きなご回答をさせていただきたい思っております。本日いただきましたご意見・ご提言につきましては、今後の南部圏域の振興はもちろんでございますが、徳島県勢発展のためにもしっかりと反映させて参りたいと思っておりますので、どうか今後ともよろしく願いいたします。

本日は本当にありがとうございました。

(閉会)